

～神々の棲む里～

# 田森自治振興区だより

No.222

発行：田森自治振興区（令和3年4月20日）

☎・fax 08477-2-0661

E-mail [tamori@vesta.ocn.ne.jp](mailto:tamori@vesta.ocn.ne.jp)

田森自治振興区フェイスブック QRコード



田森地区 総人口642人(-8) 世帯数297世帯(-3) (令和3年3月末現在)

～いま私たちにできること！新しい命のために地域再生に取り組む～

## 田森自治振興区 令和3年度総会

4月16日（金）、各自治会から選出された代議員が出席し、令和2年度事業報告及び各会計収支決算、令和3年度事業計画及び各会計収支予算、規約改正、役員改選など全部で6の議案について審議のうえ、いずれも承認されました。

総会は、受付時の検温や健康チェック、マスクの着用、アルコール消毒などを徹底したほか、席と席の間隔を十分にとり、新型コロナウイルスの感染防止に努めました。



令和2年度は、地域振興計画に定められた方針を基本に、事業計画に沿って各専門部を中心に各自治会や関係機関と連携を図るとともに地域の皆さんの参画を得ながら事業活動に取り組みました。しかしながら歴史に残る新型コロナウイルスの全国的な感染拡大により、国が緊急事態宣言を発するなど年度当初から厳しい制約を受けるなどかつてない環境下におかれ、各種の事業活動は縮小しあるいは中止するなどの対応に追われて、十分な成果を得られたとは言えない状況にありました。こうしたなか、感染状況を見ながら、また県市の対策に準じながら、実施可能な範囲で計画の実現を図ってまいりました。

### 令和3年度事業計画



1.はじめに

#### 【国内の動向

～「持続的発展を新たな理念」新過疎法】

昭和45年以来、四次にわたり議員立法として過疎法が制定され、一定の要件のもとに全国の過疎地域（市町村）に対する諸施策が講じられてきました。その時代の背景に基づき、人口の過度の減少防止、地域の振興、地域の自立促進などの目的を定め、主として財政的な支援が過疎地域に対して行われてきました。これまでの経過は、概ね次のとおりです。

過疎地域対策緊急措置法（昭和45年）

（中略）

過疎地域自立促進特別措置法（平成12年）以後、平成22年、平成24年、平成26年、平成29年に法改正が行われ、現行の過疎地域自立促進特別措置法は、令和2年度末（令和3年3月31日）に期限が到来します。

このため、新たに「過疎地域の持続的発展に関する特別措置法」として今国会に法案が提出され、年度内の成立に向けて審議されています。現在の過疎地域の状況を見ますと、全国1,718市町村中47.6%に当たる817の市町村が過疎関係市町村であり、人口で見ると1億2,709万人中8.6%に当たる1,088万人、面積で見ると37万7,971㎏の国土のうち、22万5,468㎏が過疎地域となっており、率にして59.7%と実に国土の6割相当が該当するという厳しい現状です。

審議中の新たな過疎法案は、現行の「自立促進」から課題の克服に向けて新たな潮流を生み出そうとするもので、人口減少社会を迎える中、持続可能な地域社会を形成することを理念に掲げています。そして具体の施策の方向性ですが、過疎地域の課題の解決を目指し①過疎地域の特性を生かした学校教育の展開（小規模校での取り組み、高等学校の魅力化等など）②新しい人の流れと地域のつながり（田園回帰の潮流、移住・定住支援など）

③しごとづくりの新たな展開（働く場の創出、地域内のエネルギーや経済の循環など）④集落づくりのための地域運営組織やサポート人材の配置などを新たな取り組みとして推進することとしています。そこに見て取れるのは、人材の確保を重要視している点です。これから先の集落をどのようにしていくのか、地域に住む人々と外部のサポート人材とのネットワークで考え、実行に移していくことで持続可能な地域社会を築いていくことが重要だとしています。



### 【市内の動向 ～ 次世代に何が残せるのか】

市内の動向を見ると、依然として圧倒的に速い速度で少子高齢化が進んでいます。令和3年2月28日現在の住登人口は34,049人と前年に比し△2.0%、東城町では7,294人△2.2%という状況で7,000人台を割り込むのが目前に迫る勢いです。2020年国勢調査の速報値によると庄原市の人口は、前回調査（2015年）から3,279人の減で33,721人となり、△8.9%と県内では安芸高田市に次いで高い減少率となっています。社会減もさることながら自然減による人口減少が著しいことから、今後さらに加速度的に進むことも懸念され、まさに社会が崩壊する一歩手前の危機的な状況に立たされています。



これまで大きな流れの中で、生産年齢人口とされる若年階層が少ない点につき、経済的な側面からの問題としてよく取り上げられてきましたが、都市部であるか地方であるかを問わず、社会の存続が根本から懸念される事態に至っているというのが今の状況です。何度も繰り返しますが、誰かが何とかしてくれるだろうと思っただけでも、支える人つまり働く世代がいなくなれば誰にも頼ることができなくなるということに外なりません。そしてそれ以上に将来の社会を担う若い世代に、これ以上の負担をかけることを止め、どうやって持続させるのか、社会問題として考えることがいま最も求められているのではないのでしょうか。



### 【持続可能な地域社会を築く ～ ！新しい命のために全力を尽くす】

田森自治振興区では、これまで定住促進、地域包括ケアシステムの構築、子育て支援という三つの柱を重点事業として全力で取り組んできました。人が安心して暮らせる条件として、一定の人・住まい・経済・医療・福祉・教育といった基盤が必要であり、そのどれもが人によって支えられ維持されています。2015年から2019年までの4年間で住民が全くなくなった、ゼロになって消滅した集落が、全国で164あるという総務省の調査報告もあります。いま、これ以上の人口減少は、社会の仕組みを根底から崩壊させるという危機感に直面しており、求められているのは誰もが安心して暮らしを営むことができる地域という視点で持続可能な地域社会を築いていく、そのためにも次の時代を担う子どもたちが将来どのように地域とかかわりあっていくのか、多様な社会を生きる力を養うとともに地域に誇りを持ち、将来を担う社会性を養うよう地域が全力で子供たちを育てていくことだと考えられます。

新しい命のために全力を尽くす、そういった課題を真正面から受け止めて、若い世代や子どもたちのため、そしてこれから生まれてくる新しい命のために地域を再生し、未来へつないでいく努力が、現世代の私たちの責務として求められているのではないのでしょうか。

## 【未来に希望を持つ

### ～ 定住対策の強化と重点事業】

少子高齢化、人口減少という流れの中で不安感を抑えることは難しいかも知れませんが、そこで私たちに求められているのは、これまでも繰り返し訴えてまいりましたが、それならと今のうちに自分たちが逃げ出したり、もう駄目だと諦めたりすることなのか、いや、そうではなく次の世代が生き残ることができるよう努力するのか、ということではないでしょうか。

田森で暮らすことに大いに胸を張っていただきたいと思います。「田森は、しっかり自立して残っていくのだ」という強い気持ちをもって、若い人が住み続けることができる地域、安心して子育てができる地域をめざして、みんなで力を合わせる事が重要になってきます。今まで以上に「田森に帰ってきんさい」「田森で暮らしてみんさい」と声を大にして呼びかけることを基本にして定住対策を進めることが未来へつながる道であり、そのためにも人・住まい・経済・医療・福祉・教育といった社会基盤の整備を進めることが重要です。

令和3年度ではこれらを基本に、みんなで心をつなにし、安心して安全に暮らせる地域社会を目指して、以下に掲げる重点事業をはじめ生涯学習事業など様々な事業活動を連携させながら全力で実施してまいります。

《写真提供：毛利元真 様》



地域の皆様のご理解と積極的なご参画をぜひともよろしくお願いいたします。

1. 地域振興計画に定める活動の柱
  - (1) 自然との共生で元気な地域づくり
  - (2) 協働で人が輝く地域づくり
  - (3) 安全、安心な温もりのある地域づくり
  - (4) 伝統文化の薫る地域づくり

#### 1-2. 計画の推進と未来の展望

四つの柱を基軸に計画を推進し、重点事業ほか一般事業等の実施により、安心して安全に暮らせる地域社会の実現を目指しているが、2021年令和の時代を迎え、未来を展望した地域づくりを考えていくという要請が高まってきている。こうしたことから次代を担う世代を中心に、これからの地域社会においていかに未来へリレーしていくのか、ワークショップなどを通じて目指す方向性を探っていくこととする。

## 2. 事業内容

### 【重点事業】

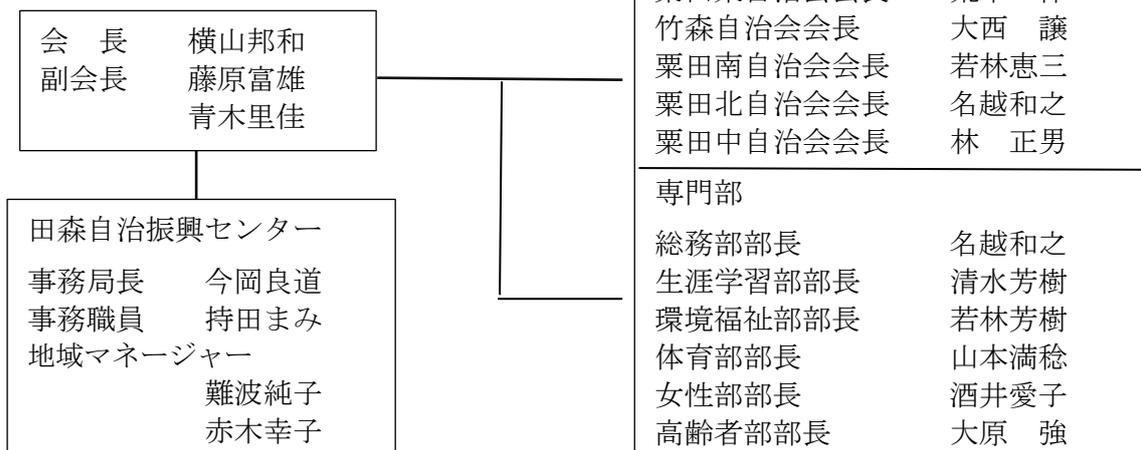
- ・ 定住促進活動事業費
- ・ 地域と共にある学校 「栗田小学校」 支援プログラムの推進
- ・ 地域包括ケアシステムと田森あんしんネットの推進

### 【一般事業】

- ・ 指定管理事業
- ・ 栗田放課後子ども教室、地域未来塾の運営
- ・ デイホーム事業
- ・ 自主防災活動の推進
- ・ 生活交通
- ・ 田森物語事業
- ・ 各専門部活動 ほか



## 田森自治振興区組織図



～地域の宝、未来を担う子ども達に～

栗田小学校 新入学児童



# ランドセル賞の贈呈

田森自治振興区では、定住促進と就園・就学対策の一つとして、栗田小学校へ新入学、転入学した児童にランドセル賞を贈る取り組みを続けています。

4月7日（水）、栗田小学校の入学式が終了した後、自治振興センターに新一年生の若林春斗くんを迎え、横山会長からランドセル賞を贈呈しました。

真新しいランドセルを背に、晴斗くんは満面に笑みを浮かべ、大喜びしていました。



ランドセル賞の後は、「栗田っ子プロジェクト」のメンバーが、入学のお祝いに風船などで飾りつけされたスポットの前で記念撮影、凛々しい姿を見せてくれました。

これからも振興区をはじめ地域では、宝物である子ども達が立派に成長するようこれからも全力で支援してまいります。



総務部



令和2年度一般会計決算書を配布しますのでご覧ください。

## これからの行事予定・施設等

- 4/20（火）行政文書発送
- 20（火）移動システム共同研究会議 19：00～（振興センター・和室）
- 21（水）デイホーム再彩会（竹森集会所） 移動販売車 14：30～
- 21（水）中区 新生会 13：30～（振興センター・和室）
- 21（水）生花教室 20：00～（振興センター・小研修室）
- 22（木）食彩工芸部 9：00～（振興センター・調理室）
- 22（木）プリランテ バンド練習 9：30～（振興センター・大研修室）
- 22（木）田森地区民親睦大運動会実行委員会 19：00～（振興センター・和室）
- 24（土）参議院広島県選出議員再選挙 会場準備
- 25（日）参議院広島県選出議員再選挙（東城第4投票所）
- 26（月）移動販売車 14：00～ 東区サロン（東区 集会所）

◎毎週月曜日 「田森子ども安全見守り隊」

◎毎週木曜日 未来塾 15：30～

◎毎週木曜日 森林の匠塾 木工工作部活動日 ～皆さんも一緒に活動しましょう！～  
時間：午前9時～午後4時 場所：（旧）JA田森出張所

※移動販売車は、デイホームやサロンのほか、自治振興センターにも定期巡回していますのでぜひご利用ください。

また、人が集まる場所でも販売が可能です。グループ等で計画があれば早めにお知らせください。日程が空いていれば可能な場合があります。

